

# 平成20年度愛媛大学SDセミナー ドイツ・スイスにおける調査 FDの取組調査



教育学生支援部

教育企画課 石川 尚

リーダー養成・能力開発室 猪崎 たみ

# 目的

- 訪問大学のFDの取組調査
- FDネットワークの調査
- 自己啓発、経験知を上げる。
- 学んだことを愛媛大学に還元する。

# 訪問大学について

## ●フライブルク大学

ドイツの南西部バーデン＝ヴュルテンベルク州フライブルク市にあるドイツで三番目に古い大学  
西暦1457年、オーストリー(オーストリア)のアルブレヒト4世によって創設。  
現在11学部、学生数2万人を擁す。

## ●ローザンヌ大学

スイスのヴォー州の州都ローザンヌにある州立大学。  
西暦1537年にAcademy(神学部)として創立。  
本当の意味で大学となったのは1890年。  
現在7学部、学生数12,500人を擁す。

## ●フリブール大学

スイスのフリブール州の州都フリブールにある州立大学。  
西暦1582年に創設。  
現在5学部を擁す。神学部は世界的にも有名。

フライブルク大学





AMMS

Platz der Alten Synagoge

UB

KABR VEB

KABR VEB



ローザンヌ大学



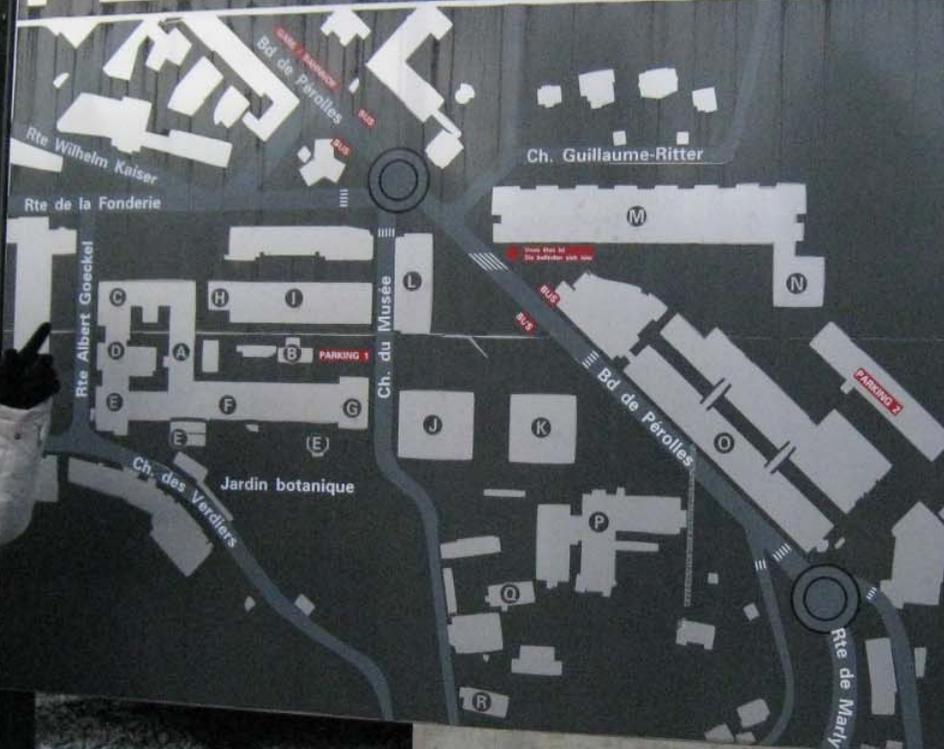






フリスボール大学

# PEROLLES



PER 21	Ch. du Musée 6 Faculté des sciences Département de Biologie Échelle de biologie	Mathématich-Naturwissenschaftliche Fakultät Department für Biologie Genetik und Evolution	PER 25	
PER 22	Ch. du Musée 6 Faculté des sciences Amphithéâtre	Mathematich-Naturwissenschaftliche Fakultät Informatik	PER 26	
PER 23	Ch. du Musée 14 Faculté des sciences Département de Mathématiques	Mathematich-Naturwissenschaftliche Fakultät Department für Mathematik	PER 27	
PER 24	Rte Albert Goeckel 1 Faculté des sciences Département de Mathématiques Analyse	Mathematich-Naturwissenschaftliche Fakultät Department für Mathematik Analysis	Bd d	
PER 25	Rte Albert Goeckel 2 Faculté des sciences Département de Biologie Institute Biologie	Mathematich-Naturwissenschaftliche Fakultät Department für Biologie Physiologie	PER 28	
PER 26	Ch. du Musée 6 Faculté des sciences Département de Biologie Institute Biologie	Mathematich-Naturwissenschaftliche Fakultät Department für Biologie Zell- und Entwicklungsbiologie		
PER 27	Ch. du Musée 8 Faculté des sciences Département de géométrie Écriture Mathématiques Musée d'histoire naturelle	Mathematich-Naturwissenschaftliche Fakultät Department für Geometrie Erziehung Mathematik Naturhistorisches Museum		
PER 28	Ch. du Musée 8 Bâtiment Principal Recherche	Universität Paderborn/Lehrstuhl		
PER 29	Ch. du Musée 4 Faculté des sciences Département de géométrie Écriture	Mathematich-Naturwissenschaftliche Fakultät Department für Geometrie Erziehung Mathematik		
	Musée d'histoire naturelle	Naturhistorisches Museum		
	École des sciences de l'éducation	Lehrstuhl für Erziehungswissenschaften		

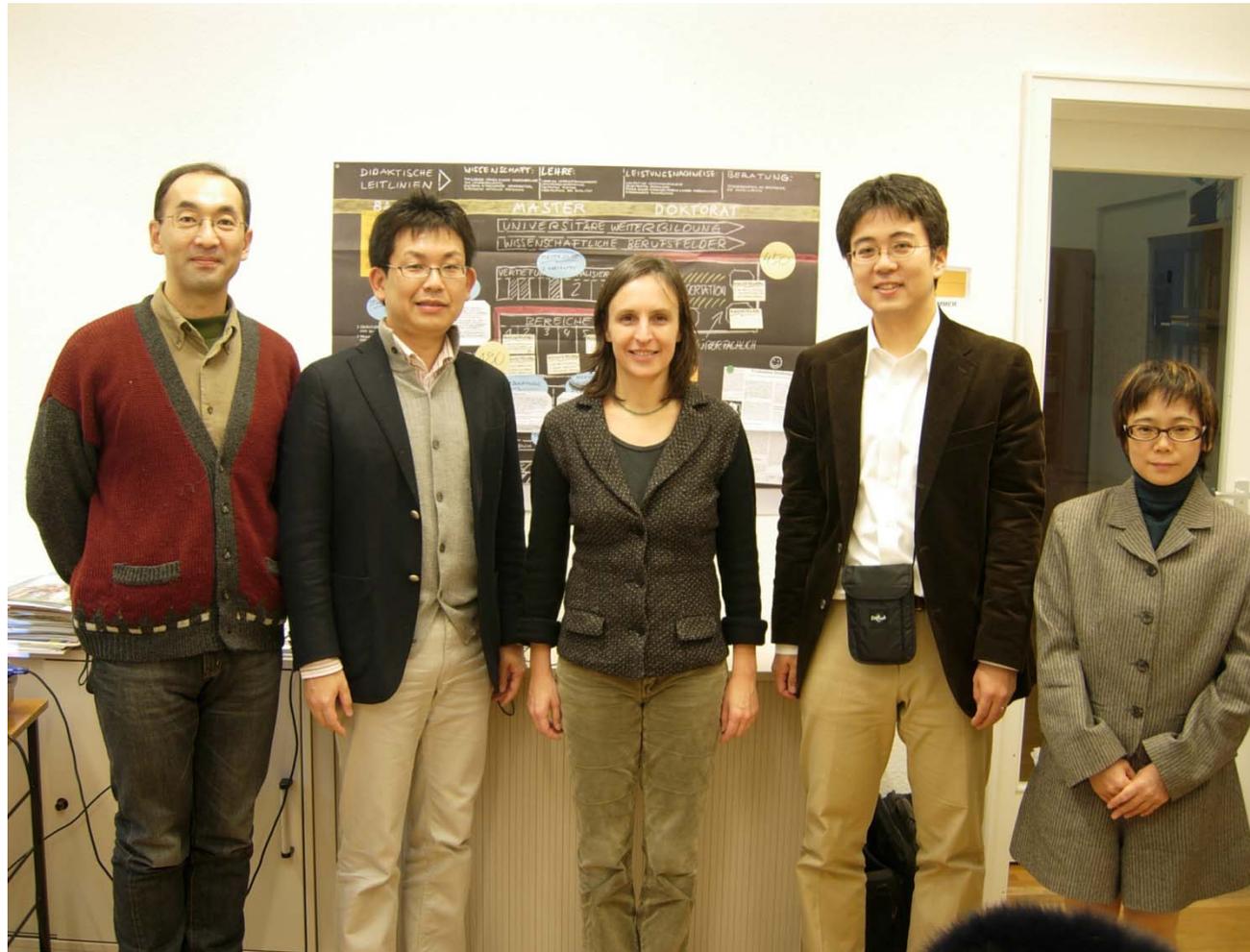




ここで簡単に自己紹介をします

皆様も自己紹介文を考えてみてください。自分の業務を見直す良い機会になると思います。

# フライブルク大学



# 国レベルのFDの流れ

1960年代 学生運動が起こり、学生から教授に対して教え方の改革を求める動きがあった。

1970年代 助手、アシスタントが教授法についてのグループを作り始めた。

その当時は、理論中心で現実的な話ではなかった。  
→ムーブメントはあったが、実行に至らなかった。

1990年代 メディアが「大学の教え方が杜撰だ」と報道した。  
その当時言われていたこと...教える側は教えたいことを教えたい方法でしか教えない。学ぶ側が学びたいことを教えてくれていない。

教授ではなく、助教授たちが自主的にグループを作って実践を始めたが、簡単な道のりではなかった。  
60年代から波があったが、進捗が遅いという意見があった

# バーデン＝ヴュルテンベルク州の取組

2000年 社会背景をもとに、バーデン＝ヴュルテンベルク州が取り組みを開始した。

フライブルク大学、ハイデルベルグ大学、チュービンゲン大学の3校は90年代からFDに関するセンターを持っていた。州はそれを受けて、他の大学(6校)も全て行うことを条件に支援をしようとイニシアティブを取り、ゆくゆくはリーダーシップを取ろうともくろんだが、大学側がそれを望まなかった。大学は資金を半分受け持つことは承諾したが、最初から州に権限を持たせなかった。自分たちで有効なプログラムを作ろうとした。

2001年～2006年 州が財政の半分以上を補助した

→現在は州からの補助はない。

(補助金は州全体で50万ユーロ、全大学負担50万ユーロ。)



# バーテン=ヴェルテンベルク州の現在

- 大学が独立して、それぞれができるレベルになっている。
- 人件費の負担増  
補助金の出ていた6年間はパートだった人たちがその後常勤扱いとなったため、大学の負担が増えた。
- 州に1つあったセンターを廃止し、それぞれの大学が交代で1年毎に拠点を担当(毎年ローテーション)。持ち回り制になっているため、(問題点はあるが)代表者といえどもFDの専門家というわけではない。意見調整が主な役割である。
- スタッフ同士の会議に時々ビデオ会議システムも利用する。
- 1日ないし2日かけて1箇所に集まり会議する(年間3、4回季節ごとに)。



**昼食を一緒にといたが  
意見交換を行いました**



# モジュール

モジュール1～3。年間14コース。各コース12～16人参加。

・モジュール3まで到達した人(45分×60回)100人弱

■ニーズが増えている理由

①参加すれば指導がしやすくなる。②一度コースに参加すると、他のコースにも興味が湧く③履歴書に記載できるというメリット

・この資格がないと教えられないことはないが、資格になっているものも増えている。

・プログラム提供の統一基準はない。

・最初はどの大学も同レベルのプログラムを提供していたが、個々の大学の自己負担で開講となると、資本力に応じたものになってきている。

・受講生は受講料無料(実費負担:教材費1日あたり15ユーロ)。  
実費以外は大学が負担。



# フライブルク大学組織

2つの組織に分かれている。

## 1. (既存組織)

大学レベル、州レベル

…マイクロレベル(大学内のこと(個々の能力を高める))

## 2. (新しい組織)

国レベル、短期複数プロジェクト(調査…外部資金)

…ミドル・マクロレベル

大学の方向性を含むコンセプトを決める

…企画室のようなもの

# 国レベルのネットワーク (DGHD)

- 自主的なネットワーク、5人が中心にいる
- 支部レベルは持っていない。
- 事務局は現在フライブルク大学にある。(代表者サンティナさん)
- 3年ごとに交代で条件によっては2期(6年)になることもある。
- DGHDは50の機関会員と200名の個人会員がいる。
- 1971年にワーキンググループを作ったことから始まった。

## DGHDの活動

1. 単科大学、総合大学のFDに関するネットワークワーキング作り
2. ブラッシュアップ(ディベロッパーのため)のための専門的なプログラムの各大学への提供
3. サーティフィケーションのすり合わせ、新しく大学がセンターやサーティフィケーションを立ち上げようとするときのチェック



ミュージアム

# フライブルクの町並みの紹介





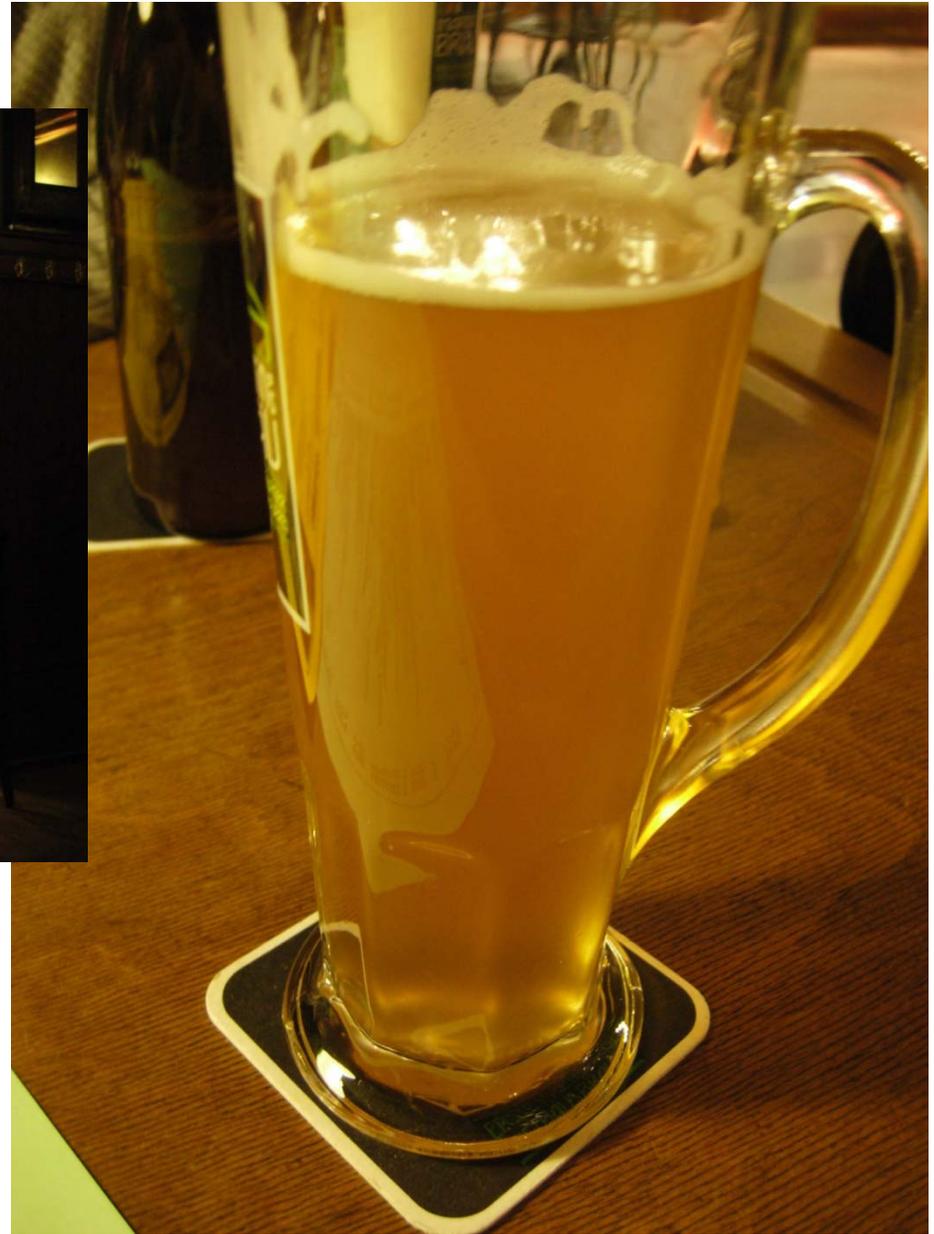






# フライブルクの料理の紹介







# ローザンヌ大学



# 概要

1537年 Academy (神学校)として創立された

1890年 大学として認められた

学部数 7学部 (生物学と医学、法律と犯罪学、神学と宗教学、  
芸術と文学、社会科学と政治学、地球科学)

学生数 12,500名

教員数 800名 (その他300名の大学病院関係者)

2004年から全員が契約制 (6年毎の更新)。

自分の実績 (自己評価 (研究、教育、運営)) を示して雇ってもらい、次の契約期限までに実績が上げられなければその時点で解雇となる。

# センターの活動について

## ■Mission

学生の学習経験を高めるために教え方の質を高める。

## ■教員のサポート体制について

- ①カウンセリング（個々人の問題に対応、共に考える）
- ②トレーニング
- ③授業評価アンケート
- ④大学の授業法の応用的研究

# ① カウンセリング

## ■ 個別カウンセリング

具体的な質問に対応(学生評価の解釈の方法等)

教員・・・毎週2、3名 TA・・・年間約200人。

## ■ 授業観察

実際の授業を観察やビデオカメラで撮影して、ビデオを見ながら話し合う。(希望があった場合や個別カウンセリングで教員がピンときていない時に実施)

## ■ グループカウンセリング

複数の教員に対して話し合いの場を設ける。

→ 今後は個別からグループカウンセリングへの移行したい。  
(教員が互いにコミュニケーションした方が解決しやすい。)

## ② トレーニング

### ■ 授業デザインと教授法に関する3日間のワークショップ

- ・ 教員：年2回（1月と7月）年間延べ30人程度参加
- ・ 教員の助手（TA）：年6、7回 年間延べ80人程度。

TAのうちにしっかり指導しておくことで教員に就職したときに余計なFDを実施せずに済む（大学での教育のためのイントロダクション）という意図がある。

### ■ 特別テーマのワークショップ（1日or半日）

### ■ ランチタイムの情報交換会の開催



# ③ 授業評価アンケート

1999年から実施

対 象：授業・演習・ゼミ・語学

実施時期：教員へは授業期間の2/3終わったところでアンケートを実施することを周知をしている。

方 法 等：・紙媒体（オンライン化の話はあるが、回答率が下がるのは避けたいため、慎重に検討中）

・アンケート回収後4週間以内にフィードバック

・結果は担当教員本人にメールで送る。

①結果の説明書き（読み方）②結果コメント③集計表④グラフ

・教員は必ずフィードバックする。

質問事項：教員自身の能力ではなく、教育の環境（ティーチャーではなくティーチング）

## ■特徴

### ①すべての授業で行わない。

2年に1度、最低1つの実施を指導し、授業を教員が選ぶ。

・この方法を選択する理由

センター:全ての授業で行うと、対応は不可能

教員:毎回実施する時間的余裕がない。

改善のモチベーションが下がる。

学生:中身が薄くなる。意味のあるコメントが少なくなる。

機械的に行うようになる。

・年間650の授業で実施(800人のスタッフ)

・アンケート枚数は22,000枚

(学生は年間2つのアンケートに回答)

### ②情報の機密性(担当教員とデニースさんのみ)

学部長等には見せない(担当教員の許可がある場合を除く)

③広報活動の充実 (学生)ポスターを全教室に貼る。

(教員)Webサイトで手本を示す

# ネットワーク

- ワークショップのネットワーク(フランス語圏の大学)  
教員向けトレーニングネットワークの他に、FDerのためのワークショップも計画中である。
- スイスのFDネットワーク(SFDN)(国レベル)メンバー50人
  - ・実践のためのコミュニティ、ロビー活動の中心。
  - ・ボローニャ計画(EUの中での教育の統一)への提案。
  - ・オフィシャルな活動だけでなく、様々な情報交換を行う。
  - ・6週間ごとのミーティング
  - ・支部のようなものはないが、言語ごとのサブグループがある。
  - ・英語を共通語にしている。
  - ・全ての大学が参加しているイベント(オフィシャル)  
FDerのための研究会(10月)学生の授業評価の勉強会(2月)

# スイスの街と料理の紹介



CANTONALE

BCV

PARREX  
VERBODEN

tl

BUS

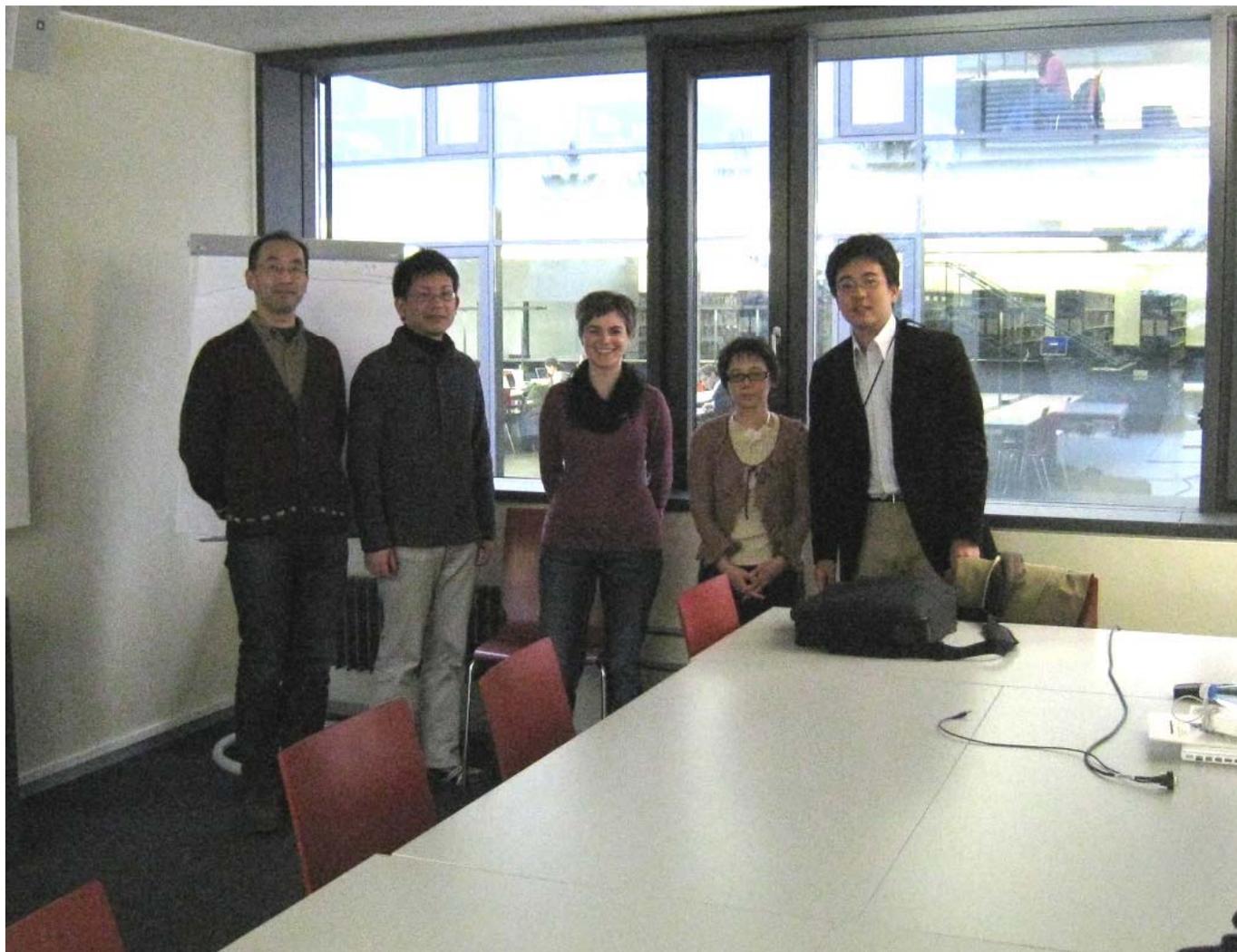








# フリスブール大学



# センターの4つの活動

## 1. 研究

- Palette (パレット) ヨーロッパの国々との共同プロジェクト
- e-equal... 男女平等のための協働作業

## 2. 情報

- Webサイト・ブログは掲示板役割になっている。

## 3. カウンセリング

### ① 教員のためのコミュニティ(カウンセリング)

教員特有の問題点を話し合う。自由意志による参加。

### ② 個別のカウンセリング

授業の観察とディスカッション

教育的・技術的なカウンセリングや個別に対応のもの

## 4. 大学教員のトレーニング

- 教育技術が継続的にトレーニングできる体制をとっている。



Centre de Didactique Universitaire  
University of Fribourg  
Switzerland



did@ctic  
DIDACTIQUE UNIVERSITAIRE

# 大学教員のトレーニング

**対象:**大学の教員、未来の教員(TA、助手、講師も含めて)

**目的:**授業準備・振り返り

**特徴:**それぞれの教員のニーズや目的に適合している。  
教員に選択の余地が有る。

■トレーニングの3つの軸

①教授法・学習法的能力開発②評価③開発  
→教員は軸を視点にして選ぶことができる。

(プログラムの料金)

ディプロマ・・・1万フラン(日本円100万～80万)

サーティフィケート・・・5000フラン

モジュール・・・200～500フラン(1日あたり)

(①基本－概論②特別なもの－個別より具体的がある。)

■プログラムは学生の単位認定と同じように行う。

・ECTSポイント(1ポイント=30時間)

日本の単位と同じ(1/3が授業(1h30)、2/3が予習復習)

→ヨーロッパの単位互換性の制度である

ボローニャシステムに対応(もともとは学生の制度)

■単位制導入の理由

①複数大学で共通のものを導入する時に必要(単科大等)。

②教員が自由に選ぶことができるようになる。

③他大学で受けることができる。単位の読み替えが楽になる。

■ディプロマを取るためには

①3つベーシックモジュール

②数個の個別モジュール

③勉強会をする

→トータル200単位くらいの大きな作業になっている。

(参考)

## トレーニング: 参加者(2008-2009)

- 3つの基本的モジュール 2008年9月の1週間
- 15個の個別のモジュール 2009年1月~7月(予定)
- 様々な分野から28名参加: コンピューター, 教育, 特殊教育, 歴史, 医学など ...

	Diploma	Certificate	Modules	All
Women	12	3	3	18
Men	3	5	2	10

# 今回学んだこと（石川）

今回の調査で、愛媛大学に生かせそうな取組を見つけることができました。それ以上に得たのは、積極性が必要だという意識です。日本人は寡黙だといわれており、私もその一人でした。ヨーロッパから戻ってきてから以前よりは少しは先生や上司に発言できるようになりました。

# 今回学んだこと（猪崎）

自分の業務としては、ローザンヌ大学でアンケートに関するお話をいろいろ聞けたことがとても参考になりました。

そして何より、対応してくださった3つの大学の先生方が少しも偉ぶるところがなく優しくて本当に素敵だなと感じました。

また、フライブルク大学の建物に銘文が刻まれているのですがその意味は「真理はあなたたちを自由にする」というものだそうです。

この言葉も自分の頭の中に保存したいと思います。

# お礼



今回3大学訪問しましたが、各大学でご対応いただいた皆様方ありがとうございました(特にデニースさんにはお忙しい中3日間もご対応いただきありがとうございました)。

また、フライブルクでは松山市役所の中岡さんに大変お世話になりました。ありがとうございました。

寺下先生、ドイツ語・英語の通訳ありがとうございました。

最後に、このような機会をもうけていただいた高瀬先生、佐藤先生、ありがとうございました。



ご静聴いただきありがとうございました